

学年	5年 6年	時間	体育科 or 総合的な学習 「災害時要援護者疑似体験 ～視覚に障がいのある人とともに」	時期	5年(2月)、6年(12月) or 適時	時数	1時間 (45分)
目標	災害時の要援護者（視覚障がい者）の不安な気持ちを理解し、サポートの仕方を学ぶことにより、災害時に進んで手を差し伸べることができる共助の精神を育む。						
資料・準備	アイマスク(目隠しできるもの)、新聞紙、ロープ(長縄)、危険箇所パネル(厚紙)、指導資料						

展開

	学習活動と内容 主な発問・指示(◇) 予想される児童の反応(・)	指導上の留意点 支援(○) 評価(☆)
導入	<p>1 学習したような災害が急に起こった場合、視覚障がい者はどんな気持ちか考える。</p> <p>◇急に地震が起こったとき、視覚に障がいがある人はどんな気持ちでしょう。</p>	<p>○地震被害写真を見せて考えさせたい。</p> <p>○台車の上でしゃがんで目をつむり、揺れを体感させてみる。(危険がないよう教師が操作)</p>
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 視覚に障がいがある人のサポートはどのようにすればいいだろう </div> <p>2 二人ペアになり、障害物が散乱した教室内を歩いてみて感じたことや分かったことを話し合う。</p> <p>◇二人ペアになって、一人がアイマスクをして視覚障がい者役となり、もう一人は介助(サポート)役になって教室内を歩いてみましょう。</p> <p>◇ペアで役割をチェンジして歩いてみましょう。</p> <p>◇体験して感じたことや分かったことを発表しましょう。</p> <p>◇介助(サポート)する人は、どのようにして誘導したらよいでしょう。</p> <p>3 視覚に障がいのある人が不安に感じない正しいサポートの仕方を体験する。</p> <p>◇学習した正しいサポートの仕方を体験してみましょう。</p>	<p>○視覚障がい者役の人に廊下でアイマスクを付けて静かに座って待たせ、雰囲気慣れさせる。その間に、教師は介助(サポート)役の人と一緒に教室内を普段と異なる状況に設定する。</p> <p>○新聞紙、ロープなど転んでもけがにならないような障害物を床に置く。(瓦礫や電線の代替)</p> <p>○教室の後方のドアから時間をずらして順に入り、教室内を誘導し、前方のドアから廊下に出るコースとする。</p> <p>○待つペア、体験後のペアともに廊下では静かにする。</p> <p>○発表させたのち、不安を少なくする正しいサポートの仕方の説明を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・サポートする人は前を歩く。 ・腕を90度にまげて固定し、視覚障がいの人にその肘をもってもらう。 ・状況や気を付けることを話し、注意喚起しながらゆっくりと歩く。 </div> <p>○正しいサポートの仕方をもう一度ペアで交代しながら体験させる。</p> <p>☆声をかけながらゆっくり正しく誘導できたか。</p>
まとめ	<p>4 本時の振り返りをする。</p> <p>◇正しいサポートの仕方を体験してどうでしたか。</p> <p>◇視覚に障がいのある人が、災害時の不安を解消するには、そのほかにどんなことが有効だと思いますか。</p>	<p>○数人に感想を発表させ、正しいサポートの仕方を全員で確認させる。</p> <p>○大切な点を付け加えておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前を知らせ、大丈夫ですかと声をかける。 ・周囲の状況や何が起きているか説明する。 ・普段から挨拶や交流をしておく。 </div>

関連する教科・領域等	6年社会科「わたしたちのくらしと日本国憲法～人権尊重の社会と災害時への備え～」
協力団体	